

## 平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成31年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 37人

② 算数 37人

#### 5 留意事項

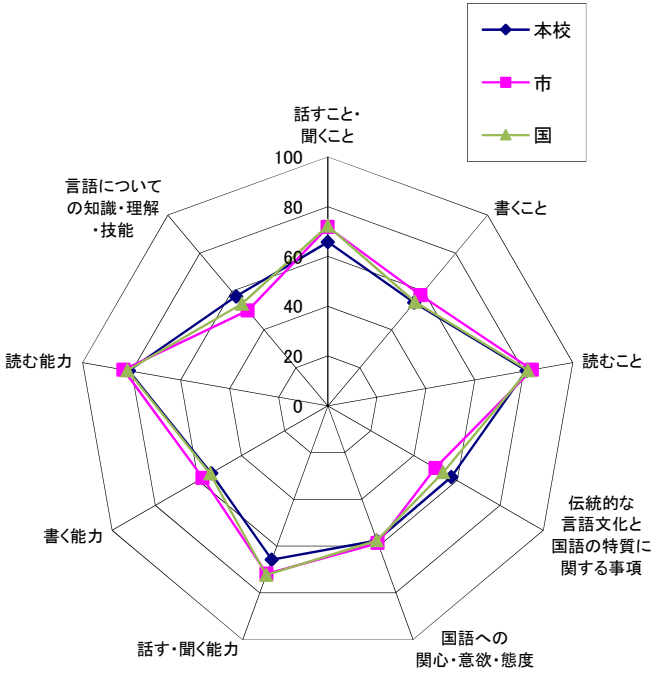
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 65.8 | 71.8 | 72.3 |
|     | 書くこと                 | 54.1 | 58.0 | 54.5 |
|     | 読むこと                 | 81.1 | 83.3 | 81.7 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 57.3 | 50.0 | 53.5 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 57.7 | 58.7 | 57.6 |
|     | 話す・聞く能力              | 65.8 | 71.8 | 72.3 |
|     | 書く能力                 | 54.1 | 58.0 | 54.5 |
|     | 読む能力                 | 81.1 | 83.3 | 81.7 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 57.3 | 50.0 | 53.5 |
|     |                      |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

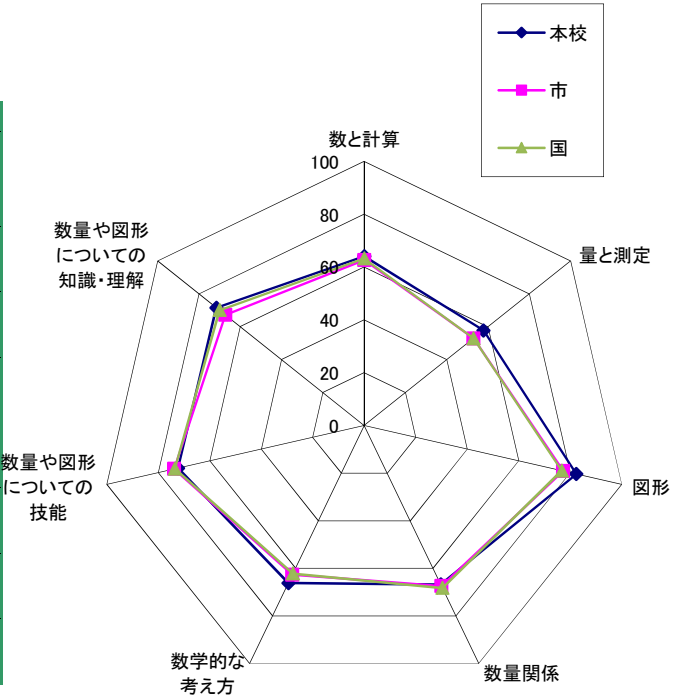
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | 平均正答率は、65.8%で、全国平均を6.5ポイント下回る。<br>○「目的に応じて質問を工夫すること」は、全国平均と同程度となっている。<br>●話し手の意図を捉えながら話を聞き、自分の理解を確認するために質問したり、考えをまとめたりすることに課題が見られる。                                    | ・今後、各教科の授業で、話し合い学習を効果的に取り入れていく。その際、漠然と話を聞くのではなく「海道小スタンダード」を活用して、話し方・聞き方などの学習方法の徹底を図り、目的を持った聞き方ができるように指導していく。                                                                                            |
| 書くこと                 | 平均正答率は、54.1%で、全国平均54.5%と同程度となっている。<br>○「目的や意図に応じ、自分の考えの理由を明確にして書くこと」が全国平均を6.3ポイント上回る。また、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫についても、全国平均と同程度となっている。<br>●図表やグラフなどを用いた目的を捉えることに課題が見られる。 | ・各教科でのまとめや発表の際に、図表やグラフの効果的な使い方を考えたり、目的に合った図表やグラフを選んだりすることを指導していくようにする。<br>・日記や作文、随筆、投書等の書く活動の中で、意見と理由を区別して、自分の考えを書く指導を継続して行っていく。さらに、投書を実際に投稿するなど、書く楽しさを味わせる。<br>・問われたことや条件に対して、要点をとらえて、正しく書けるように指導していく。 |
| 読むこと                 | 平均正答率は、81.1%で、全国平均を81.7%に対し同程度になっている。<br>○目的に応じ、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む設問では、目的に応じた内容を書くことができていた。<br>●文章全体を既観して効果的に読むことに課題がある。                                     | ・国語の授業において、文章の構成を意識的に考えさせたり、書かれている内容に注目させたりしながら、内容を的確に押さえることができるようにする。<br>・問われていることが文章の中にあることに着目させ、文章に基づいて記述したり、選択したりする練習を積んでいく。                                                                        |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 平均正答率は、57.3%で、全国平均53.5%と同程度となっている。<br>○「漢字を文の中で正しく使うこと」は、3問中2問が全国平均を大きく上回る。ことわざの意味を理解して、自分の表現とすることは全国平均と同程度となっている。                                                     | ・既習事項の漢字や文章の構成については、日記の中で具体的に使用したり、家庭学習等で復習したりするなど、個人差に応じて丁寧に指導していく。<br>・日常生活の中でことわざを使っていく。                                                                                                             |

宇都宮市立海道小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

| 分類 | 区分              | 本年度  |      |      |
|----|-----------------|------|------|------|
|    |                 | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と計算            | 64.1 | 62.7 | 63.2 |
|    | 量と測定            | 57.7 | 52.9 | 52.9 |
|    | 図形              | 82.4 | 77.3 | 76.7 |
|    | 数量関係            | 66.8 | 67.4 | 68.3 |
| 観点 | 算数への関心・意欲・態度    |      |      |      |
|    | 数学的な考え方         | 66.2 | 62.7 | 62.2 |
|    | 数量や図形についての技能    | 72.3 | 73.8 | 73.6 |
|    | 数量や図形についての知識・理解 | 71.6 | 67.2 | 70.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算  | 平均正答率は、64.1%で全国平均より0.9ポイント上回る。<br>○減法や除法の計算の仕方についてよく理解し、身に付いている。<br>●何倍かに関する問題に課題が見られる。               | ・何倍かという考え方が単位量当たりの大きさや割合の考え方に基づいていることを、数直線や図などを活用して確認し、繰り返し練習する。<br>・既習の内容の復習を宿題や朝の学習で行い、基礎基本の確実な定着を図るようにする。<br>・知識として身に付けたことを活用する力を伸ばすために、他の領域や教科と関連させた問題を児童の興味に合わせて考え、授業で取り上げるようにする。                                          |
| 量と測定  | 平均正答率は、57.7%で全国平均より4.8ポイント上回る。<br>●知識を活用する問題や理由や説明を記述する問題に課題がある。<br>●数式と図形の求積を結び付ける問題に課題がある。          | ・授業の中で、理由や説明を友達同士で発表し合うなど、学び合いを通して考えを深め広げた後に、それを記述する機会を増やしていく。<br>・日常生活の中から問題を作成し、実生活の中で活用できるような力を身に付けさせていく。<br>・学び合いの中で、求積の仕方を深めたり広げたりした上で、図形と式がどのように結びついているか、様々な見方から検証していくようにする。                                              |
| 図形    | 平均正答率は、82.4%で全国平均より5.7ポイント上回る。<br>○図形の構成要素や性質をよく理解し、知識を問う問題を解くことができている。<br>●図形の知識を活用して解く問題に課題がある。     | ・公式を覚える際に、どうしてその数や式が成り立つのかを、デジタル教科書や模型などを利用して視覚的に指導することで理解を深める。<br>・図形を活用する力を伸ばすために、日常生活の中に隠されている図形について取り上げる機会を増やすなどして、身に付けた知識を実生活の中で深めていく。                                                                                     |
| 数量関係  | 平均正答率は、66.8%で全国平均より1.5ポイント下回る。<br>●棒グラフの特徴や傾向を読み取ることに課題がある。<br>●単位量当たりの大きさを基にした問題や理由や説明を記述する問題に課題がある。 | ・新聞などを利用し、様々なグラフを読み取る活動を取り入れる。読み取ったことをグループ活動で、共有し合うなどの学び合いを通して、いろいろな見方と表現の仕方があることに気付かせる。<br>・状況に応じて最適なグラフを選択できるように、それぞれのグラフの特徴を理解させる。<br>・単位量当たりの大きさに関連する事項については、それが単位量当たりの大きさの考え方に基づいているということを、数直線や図などを活用して確認するようにし、繰り返し練習させる。 |

## 宇都宮市立海道小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は91.9%、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合も、県や全国の割合よりも上回っており、家庭での指導のもと、規則正しく生活をしていることがわかる。今後も家庭と情報を共有し、安定した生活習慣を継続していく。

○「自分には良いところがあると思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合が89.1%であり、県や全国の割合よりも高い。「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の質問に対しても89.1%の児童が肯定的回答をしており、学校や家庭で褒められたり、友達に認められたりすることで、学校生活においても安心感や自信をもって生活していることがわかる。今後とも担任と児童、児童と児童との望ましい人間関係を育てながら、児童の自己肯定感を高めていけるような指導を行っていく。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合が75.6%であり、県や全国の割合よりやや上回る。これからも、家庭と連携して、家庭学習の重要性や自分で学習計画を立てて学習する有効性について伝えていく必要がある。また児童自身に適した方法で学習していけるように、具体的な方法を伝えていきたい。

○「算数の勉強は好きですか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は83.89%であり、県や全国の割合よりも10ポイント以上上回る。学校全体で算数科の研究に取り組んだ成果が表れた。今後も、児童が自ら問いをもち、進んで課題解決に取り組めるように活動を工夫したり、共同的学び合いを充実させたりして、数学的な見方や考え方を深め、広げていく。

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は97.3%であり、県や全国と同等である。「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は89.2%であり、県や全国の割合よりもやや低い。道徳の授業や学級活動などを通して、いじめは絶対にいけないことを指導し続けるとともに、縦割り班活動や各行事など学校生活全体を通して、思いやりの心を育てていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問では、『全くしない』が29.7%、『10分より少ない』が16.2%であり、全国の数値よりも高い。「読書は好きですか」も質問に肯定的回答をした児童の割合は75.6%であり、県や全国の割合と同等であるが、『読書は好きでない』と回答した児童の割合は13.5%であり、県や全国の割合よりも高い。また、新聞を読んでいる児童も8.1%にとどまった。学級文庫を充実させるとともに、読書を通して新しい価値観や世界観に触れる機会が増やせるように丁寧に指導していく。

●「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は94.6%であり、県や国の割合より10ポイント以上上回る。日常生活を基に課題を設定したり、学習したことがどのように生活で生かせるかを示したりした成果だと思われる。しかし、「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は59.4%であり、県や全国の割合を下回る。児童の興味関心を引き付ける教材開発をしたり、めあてを明確にした分かる授業を展開したりして、児童の実態に応じて指導の工夫をしていく。

## 宇都宮市立海道小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組          | 取組の具体的な内容                                                                           | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                  |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 定着を図るための学習活動の充実 | 単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容を復習する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図る。 | 算数の「数と計算」「量と計算」「図形」領域において県の平均を上回った。「数量関係」領域の単位量当たりの大きさを基にした記述式の問題では、課題が見られた。<br>国語では、漢字を文中で正しく使用する問題は、全国平均を大きく上回ったが、「書くこと」領域では、市の平均をやや下回った。 |
| 家庭学習への取組        | 「家庭学習の手引き」を活用し、計画的に学習に取り組むよう働きかけをするとともに、個別指導により、家庭学習の充実を図る。                         | 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合が全国の割合よりやや上回った。                                                                                     |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                     | 重点的な取組                                    | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語「書くこと」の領域において、全国の平均よりは高いが、54.1ポイントと低い傾向にある。算数「数量関係」の領域において、グラフを読み取ったり、理由や説明を記述したりする問題に課題が見られる。 | 自分の考えを分かりやすく表現する(書く・説明する)力を育成するための学習活動の工夫 | 授業において、新聞などを利用し、グラフ等から様々な情報を読み取って説明したり、グループ活動などで考えを共有し合ったりする活動を通して、表現力の育成を図る。<br>また、家庭学習等で視写活動を取り入れたり、日記や作文、随筆、投書等の書く活動の中で、意見と理由を区別して自分の考えを書く指導を継続して行ったりしていく。さらに、投書を実際に投稿するなどの活動に広げ、書く楽しさを味わせる。 |